

one of them

日々の雑記帳 No.6 2003. 6. 2 by yoshiki

私の授業記録

六月に入りました。校内研のテーマ「子どもが生き生きとする授業」づくりに関わって、何事かのアクションを自分も起こしてみようと思ひ、先日、たまたまY君と読み合った詩の記録を起こしてみました。

硬筆の教材用を持って行った「雲」という詩です。音読を重ねながら詩のイメージをどこまで持てるか試してみました。予想以上にY君の読む力、イメージの豊かさに驚かされた、そんな書写の時間でした。

雲 山村 暮鳥
おうい雲よ
悠々と
馬鹿にのんきそうじゃないか
どこまでゆくんか
ずっと磐木平の方までゆくか

①読み下す段階

T じゃ、これから、読めない字はとばしていいからな、どこまで読めるか挑戦。はい、どうぞ。

Y ーくも

やまむら〇〇
おういくもよ

〇〇と

〇〇にのんきそうじゃないか

どこまでゆくんか

ずっと〇〇のほうまで

ゆくんか

T おお、けっこういい線いってるやん。

じゃ、読めへん漢字、見

当つけてみよか。「〇〇

と」……むずかしいか。

じゃ、「〇〇に」

Y 「まじに？」

T 「馬」って音読み知ってるか？

Y 「ば」

T 「ば〇に」さあ、見当つ

ける。

Y 「ばじに？」

T 習ってないのはしかた

ないな。(黒板にひらがな

で、ばかと書きかけると)

Y 「ばか」か、

T 「ばかにのんきそうじゃないか」

じゃ、読んでごらん。

Y 読む。「ばかにのん

きそうじゃないか」の一文

は表情がこもる読みにな

る)

T よつしや。ちよつとイ

メージ出てきたな。じゃ、

これ(悠々)がわかるとえ

えんやな。

Y 「しぶしぶと」

T 「おういくもよ。しぶし

ぶと……」ちよつとへんや

な。ヒント言うたろか……

(と教えようとする、

にやにやしなから漢和辞典

を引つ張り出してくる)

T お、えらい！そういうの

が大事な。調べられる

か？

(と二人で調べる)

Y 「ゆうゆうと」

T OKや。もう読める

な。

Y (読む)

T そのままで読めたら、後

は、辞典ひいても出てこな

いからな(と暮鳥(ぼちよ

う)、磐木平(いわきだ

ら)を教える)

じゃ、もう読めるな。

T 読んでみましょう。

Y (読む。)

T ほう、なかなかええや

ん。

②あらましをつかむ段階

じゃ、一つだけ聞くぞ。

「おうい雲よ、……どこま

で行くんか」て、これ、誰

が言ってるのか？

Y 雲の下にいる人

T うん。ほや。暮鳥さん

と考えてもいいかな。暮鳥

さんが……

Y 雲見てやって、「馬鹿

にのんきそうじゃないか」

て言ってる。

T おつ、ちよつと絵が出

てきたぞ。何やて、暮鳥さ

んがどうしてたって？(と

黒板に絵を描きながら尋ね

る)

Y 空見上げてやって、な

んか、ゆうゆうとばかにの

んきそうに見えたんちがう

かな。

T 何が？

Y 雲がよ。馬鹿にのんき

そうに見えたん。ただ動い

とるだけで

T ほう、この雲が馬鹿に

のんきそうに見えたんか
Y ただ、移動しとるだけやで。
T ふーん。おもしろいやん。よし。じゃ、その暮鳥さんになつたつもりで読んでみてくれるか
Y 読む。(声は小さいが、イメージが感じられる読み。)

③音読から詩の世界に近づく

T ほう、ええやん。
Y 君、雲はどこにある。
Y 空の上やん
T 空の上やな。今、Y君、どこに向かって声出した？……机に向かって声出したやろ。もういつへん、暮鳥さんになって読んで見てくれ。先生聴いてるから。
Y 読む。(さつきより広がりを感じられる読みになる)
T ……先生、聴いてるとな、雲が天井ぐらいにあるような感じ。先生やつてみるぞ。聴いてくれ。
「おうい、雲よ……」どうや？
天井、超えたか？
Y こえてへん。
T じゃ、もういつペン。「おうい雲よ……」(叫ぶ)今度は空まで届いた？
Y 届いたる。もう宇宙まで聞きたわ。
T じゃ、Y君「おうい雲よ」だけがいいから、教頭先生にまけん

ぐらいに読んでくれ。

Y 「おうい雲よ」(ふっきれた声になる)
T 教頭先生のよりええな。先生はただ大きい声出しただけやけど、Y君のは「おうい」って、遠い感じがするな。その感じでもういつペンやつてくれ。
Y 読む。(非常に明確な読みになる。)

④雲のイメージを読み描く

Y君、さつきええこと言うたやん。暮鳥さんはこの雲見て、「ゆううと馬鹿にのんきそうじゃないか」って見えたって言うたな。
じゃ、教えてくれ。暮鳥さんはどんな雲見てると思う？……今日みたいな雲？(小さな雲が点在している)
Y ちがう……あつわかった。晴れたるけど、もつとでつかい雲ちがう？まるながみみたいな雲あるやん。
T お、なんやて、晴れたある？
Y 晴れたるとき、入道雲みみたいな雲あるやん。
T ほう、でつかい雲なんか。ちがちな雲がぼかぼかあるんとちが

て……。

でつかい雲にもいろいろあるぞ。ぼかーんとまーるい雲、もくもくとした入道雲。(絵に描く)
どつちなん？
Y ……最初に書いた方かな(まるい雲)
T もういつペン読んで決めてくれ。
Y 読む。
T どつち
T こつち(丸い雲)
T ほう、すごい。入道雲じゃな。青い空にぼかーんと浮かんだ雲。
Y それが移動しとるで「馬鹿にのんきそうじゃないか」
なんが、寝てるみたいに見えるんちやう？なんか昼寝してるみたい。
T ほう。何やて
Y 暮鳥さんが空見上げてて、雲が移動して部屋の中で昼寝しとるみたいに見えるん。
T ほど、速さは？ぴゅーと？
Y おそい。
T のつたら、のつたらと。ほんで「ぼかに」「ゆうゆうと」「のんきそうに」
他にも雲はあるの？
Y ない。他にはない
T ほう。青い空に、でつかい雲が

⑤暮鳥のイメージを読み描く

じゃ、もう一つだけ教えて。今、暮鳥さんはどんなにしてると思う？
Y ……
T 空のイメージはいつぱいできた。さあ、今度は、暮鳥さんは、どこで、どうしてるのかなあつて。
Y ……
T 家の中で暮鳥さんも昼寝してる？……
先生、読むからな、暮鳥さん、今、どんなふうにして、雲に呼びかけてるのかな、て頭に浮かべてくれ。家の中なんか、外なんか、それとももつとちがうところなんかかな……
T 読む
Y 外か！やつぱり、部屋の中じゃないな。

T外の気がする？外のどんなところ？

Y芝生のいつばいあるとことか、草原。

Tほうほう。芝生のある、ひろっぱみたいなところ？

Yそれか、山登らって、頂上まで行かたときそこから叫ばった。

T山の頂上でヤッホーって言うみたいに、「おうい雲よ」ってうれしそうに言うてる。

これ、いろいろ考えてみて。

今、山の頂上で叫んでるって言ったね。

それから、さつき何て言った？芝生？

Y芝生みたいなところに立って

Tひろっぱみたいなところでのびのびした気分で、「おうい」って言うてる。それもいいんちがう。寝転がってるってのもいいかもしれんな。

Yどっちやろ。
Tこれはな、どっちで決めなくてもいいんや。読んでる人の気持ちでいいんや。

Y本人はどう思ってやるんかな？

⑥ 多様な読みを引き出す

Tもう他には考えられんか？

先生、前みんなと勉強したときにな、また違うこと言うた人あるん

やで。

Yえ？どういうこと言わったん？

Tこの人家の中にいやるんちがうかなって。……そんな暮鳥さんの姿って考えられる？

もう一ぺん読むぞ。（やや声の調子を落として朗読）

Y、あつ！もしかして建物の中やったら、窓開けて雲見てやる。

T その時の暮鳥さんて、何してやる？何してるとき、そんなこと言わったと思う？

Yなんか、ちよつとひまやって、何もすることがないで。

Tおうい雲よ、おまえもひまそうやなあつて見てる。……うん。

全然違うこと言わった人があ

る。

Yどんなこと

T暮鳥さん、今ものすごく忙しいのかもしれない。ひいひい言いながら仕事してるんかもしれない。

Yああ、あああ。

Tわかる？その気持ちわかる？

Yああ、自分は仕事してるんやけど、雲はのんきそうに見えたで、ほんで叫ばったん。あーん、それもあり得る。

Tなつ。

Y自分は一生懸命、汗かきまくって仕事してるのに、雲は仕事も何もできひんやん。ただのんびりと

うかんだけやん。

空に浮かんでるだけやん。だから、馬鹿みたいなのんきそうにしてんと仕事しんか、みたいな感じで叫ばったん。

Tいっぷくしたくてもできんのに、雲はのんびりしてて、「おまえはええなあ。」って。

そんな感じで読んでみられるか？

Y読む（皮肉をこめたような感じの入った読みになる）

Tちよつと雲に腹立てて「おまえはええのう」って感じが今に出たわ。

……ところがな、もつと違うこと考えた人があるんや。

暮鳥さん、仕事なんかしてやらへん。……どんなこと考えたと思う？

Yうーん？

T暮鳥さん、ひよつとして病院のベッドの上ちがうか？

そんなの、考えられる？

Yなんか、重傷で？病院に運ばれて、起きて見たら、雲が見えた？……なんかちよつと想像がつかんなあ。

T実はな、暮鳥さん、この詩、病院のベッドの上で作らったん。胸の病気で、もう治らん病気でベッドの上で寝てやったん。

で、もう自分動けへんの。

「おうい、雲よ……のんきそうじゃないか」の次「どこまでゆくんか、ずつと磐木平の方まで行くんか」で。

なんで、「磐木平」って出てくるのかわかるか？

Yあつ！自分、家にいいひんから、「磐木平の方までゆくんか」

T「磐木平」ってどんなところ？暮鳥さんにとつて

Y自分の家のあるところ。

Tうん、ふるさとんや。雲が磐木平の方へ行くのを見て「おまえは動けていいなあ」って。そんな気持ちもあるんだつて。

Yその病気もう治らへんの。

Tうん、この人30いくつで死んでしまったの。

ほんでも、Y君すごいわ。一人でいくつもの読みができたなあ。

じゃ、最後にもう一回読んでくれるか。Y君はどの読み方がいい？

山の上か、原っぱか、家の中か、病院のベッドか

Y家の中。

Tじゃ、そのイメージで。

Y読む

Tよかつた。（拍手）

おっと、書く練習する時間があんまり無くなつてしもたな。